



教育有線テレビ (CATV)システム

CATVはもともとCommunity Antenna Televisionの意で、テレビの難視聴地域における共同受信設備であった。この設備に使われる同軸ケーブルを使用して、独自の番組をシステム内の受像機に放映することができる。そのため、都市、ニュータウン、農村など各地域に多目的の地域情報サービスをするすぐれた手段として注目され、各方面でその開発が進められている。したがって今では有線テレビCable Televisionの意味が強い。

実用化された本格的CATVのなかで、教育分野に導入され、学校の格差是正に大きな効果をあげているのが、千葉県館山市で実施されている教育CATVシステムである。

館山市は人口5万5千、南房州の温

暖な地域にあるが、学校は大は42学級から小は6学級というように、規模の差が激しく、しかも半数近い学校が過疎学級である。大きな学校は教師もそろっており、豊富な教材・教具を使い充実した教育を行なっているが、小さな学校は人手不足で使いこなせない。このような格差を解消させるため、教育CATVシステムが導入された。

館山市の教育CATVは、市の中心部にある放送センターと市内の中学校7、小学校12、幼稚園9、公民館10の端末を日本電信電話公社の映像・音声回線で結んだもので、ケーブルは4ルート延長46km、放送センターは、スタジオと調整室をもち、端末局は、3元受信装置、親子テレビ、カラーテレビ、VTR集団反応装置および語学練習装

置を備えている。このシステムの特長は、どの端末にも映像音声3回線が送れること、どの端末からも映像音声の中継放送ができること、各端末から音声によるフィードバックができる音声連絡回線があることなどである。

本システムの具体的利用方法は、放送センターから送られる幼稚園、小・中学校番組を、端末の各校各学級がそれぞれ授業の進行に合わせて自由に利用するほか、学校や市の行事、トピックス、時には実際の授業が移動カメラで放映される。

教育CATVシステムは、学校格差の是正、教育における学習の多様化ならびに生涯教育の促進に大きな役割を果たしている。

